

# もぐら 打ち

**小** 正月の前日となる1月14日早朝に、土居二区で毎年恒例の伝統行事「もぐら打ち」が行われました。長さ約3m未満の竹の先端にわらを巻き付けた棒で地面を叩きつけ、地面のもぐらを追い出し、五穀豊穡・無病息災・家内安全を願います。かつては全国各地で行われたもぐら打ち。しかし今では、九州各県でもわずかな地域で行われるのみであり、桂川町内においては現在、土居二区だけとなっています。

藤川秀樹区長は、「近年は、桂川住民でさえ、もぐら打ちを知らない人もいます。昔から伝わる伝統行事を絶やさぬように、今後も続けていきたい。若い担い手や子どもたちの参加を呼びかけ、この伝統行事を後世まで残したい」と力強く話されました。



▲もぐら打ちに参加した土居二区の方々。



川町独自の伝統行事を絶やさぬよう、今年も来訪神は多くの水をかぶったが、その分多くの家々に恵みがもたらされることでしょう。



## 「とへとへ」という来訪神

**暗** くなった住宅街。気温も下がってきた夕方。笠や蓑を被り、来訪神に扮した若者たちが「とへとへ」と言いながら、家々を訪ね歩き始めます。来訪された人たちは、豪快に水をぶっかける！来訪神を迎える行事は全国に数あれど、神様に水をかけるのは珍しいでしょう。

桂川町土師地区で、毎年恒例の「とへとへ」と呼ばれる伝統的な行事が行われます。「とへとへ」とは「家に恵みを与える」という意味で、家内安全・無病息災・五穀豊穡を神に祈願するものと言われます。

各家庭、水かけ方は十人十色。しかし、皆に共通していることは、この「とへとへ」を心待ちにしているということ。「ずーっと続けてね」とエールを送る町民も。桂川町独自の伝統行事を



# とへとへ

